

◀◀ ヨツヤウレタン(株)創立30周年 ▶▶

◆企業に歴史あり◆

ヨツヤウレタン(株)
四家正勝社長

今年ヨツヤウレタン(株)は創業30年を迎えました。これも偏に、ウレタン防水の発展を確信して改良に励んでくれた保土谷建材工業(株)の研究陣の各位、またウレタン防水の性能を説く私達社員の言動を信じて仕事を発注して下さいましたユーザー各位、そして過酷な自然にも屈せず、黙々と現場作業を務めてきた工事部諸君の、正に三位一体の団結があってこそ成し遂げたウレタン開拓の一大事業でありました。誠に有難度うございました。ヨツヤウレタンが着実なる発展の道を歩めるのは、「ウレタン防水は10年の責任施工をすべきである」として、発注して下さいました需要家の厳しい注文があったることと信じています。そのため材工一体思想のもとに、社員の手による責任施工制度を実施し、仮にも工法の手抜きを起こらぬような施工システムを実行して参りました。その結果は、『受注し即外注して消化する』従来の防水業の流通システムを踏襲することができなかったために、量を捌けず、急激な会社組織の拡大には至りませんでした。しかし堅実をモットーとして、ウレタン耐久年限を見極めつつ歩んだ30年は、多くの役所でもリピート需要となり、ウレタン防水工法の確立と、ウレタン建材の隆昌を約束するものと確信致しております。

その意味でヨツヤウレタンはいま、社名に冠する

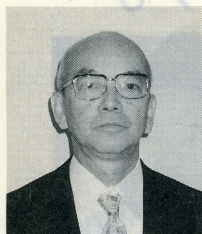
ポリウレタン合成樹脂の技術を中心として、業種、業界、そして地域性の視点から種々の商品を取り扱っております。その例として、ファスニングシステムの筒中シート防水(株)のサンロイドDNです。ウレタンの密着工法でできないプール防水などで沢山の実績を得ました。

地域性の観点からは、国内では全国的に広く工事を行っており、さらに海外でも多くの国に出向しております。業種の観点からは、建築物の修繕工事、防水工事、塗装工事、注入接着工事およびスポーツ施設工事などそれぞれの分野で、官公庁工事を含めて多くの実績をもってしております。受注業界的には、官公庁、民間ゼネコン、民間会社より受注をいただいております。

ヨツヤウレタンは、過去の実績で立証されたオーソドックスな工法を柱として、今後さらなる省力工法を成功させるとともに、適材適所の思想のもとに、性能保証のできる防水工法の発展に寄与するため、総合力を傾注し邁進する所存であります。

魅力ある職場、やりがいのある仕事、誇りの持てる職場にすべく頑張っていく覚悟であります。今後とも、関係各位の倍旧の御厚情賜りたくお願い申し上げます。今までのご支援に厚く御礼を申し上げる次第であります。

◀◀ ヨツヤウレタン(株)創立30周年 ▶▶

一層の発展・貢献を
期待して

社会福祉法人 浴風会
常務理事

高橋 喜三郎

ヨツヤウレタン(株)の創立30周年を心よりお慶び申し上げます。

30年前の日本の建設業界は、昭和39年10月10日からの東京オリンピックの建設ブームに端を発し、建設産業も大きく飛躍しようとしていた時期だったと思われま。しかし、その後の度重なるオイルショック経済不況もあり、事業環境も必ずしも快適な状

況ばかりではなかったと思われま。ヨツヤウレタンさんはそうした時代の移り変わりにめげることなく成長・発展を遂げられ、業界、ひいては社会的にも多大な貢献をされてきたことはまことにご同慶のきわみであります。絶え間ない技術向上への要求に確実に応え、防水に対する期待と信頼を裏切らぬ成果を挙げられてきたことが、今日のヨツヤウレタンさんの発展に大きく寄与されているものと考えま。

さて、私が四家社長と初めてお会いしたのは、昭和47年の夏の頃で、厚生省所管の国立東京視力障害センターに勤務しているときでした。

当時、入所生宿舎が雨漏りがするので、アスファルト防水で修理する予算要求をしたのですが、必要額の半分しか認められなかったので、大変困って本省の営繕担当技官の南さんという方に相談にいったところ、最近、こんな新しい防水工法があると教えて頂き、早速四家社長にお目にかかり、新しいウレタン防水工法についてお聞きしたのが始まりです。

現在の四家社長は大変恰幅も良く貫禄もあります

「大道無門」こそ企業発展の道

インタビュー ▼▲▼▲

— 四家社長に聞く —



— 30周年おめでとうございます。30周年の感想は

四家 私達の歩んできた道は前例のある仕事ではなくて、一日一日が新しい開拓の道のりでした。30年を迎え、ウレタン建材が大人の仲間入りができホッとした、というのが素直な感想です。

— 脱サラから会社を興された動機は

四家 商社マンのときケミカルを勉強し、ポリ

ウレタンレジンを始めて出会いました。当時、会社組織のなかで一つのことを追求することは難しく、ウレタン建材への無限の可能性にかけたい気持ちが脱サラへつながりました。個人で暫く営業した後昭和41年にヨツヤウレタン(株)を発足しました。

— 当時のウレタン防水の状況は

四家 脱サラした39年頃も、当然ながらアスノ

◀◀ ヨツヤウレタン(株)創立30周年 ▶▶

が、当時は大変スマートで、若い起業家らしくウレタン防水のことに説明され、その熱心さと情熱を信用し、国の施設では初めてウレタンによる防水工事をヨツヤさんをお願い致しました。

この屋上防水の際には入所生の歩行訓練をするための白線を引いていただきましたが、防水の仕上がりが大変すばらしかったので、その後転勤した国立身体障害センターでも体育館の床の修理の際ウレタンによる床をお願いしましたが、この体育館でモントリオール・パレリンピックに出場する車椅子バスケットの練習を行いました。転倒してもウレタンの弾力のお陰で怪我をすることが無く障害者の方々からも大変好評で感謝されました。

昭和53年に厚生省を退官し、関東大震災で身寄りのなくなったお年寄りのため、老人施設を内務省が造り内務省から厚生省に、その後社会福祉法人となった浴風会に参りましたが、当時20数棟ある建物の大半が老朽化が進み、雨漏りしている建物がありましたので、早速ヨツヤウレタンさんに補修をお願い

しました。

現在では老人ホームの建物は全て新しくなり、老人ホーム5施設と老人専門病院があり約1,200名のお年寄りが生活しております。

このような施設の性格上雨漏りの防止については特に留意しております。

その意味でヨツヤウレタンさんは取り引きを開始してから26年間、一度の事故もなく経過し、“自主的管理”もまことに当を得て、双方の信頼関係は極めて強固なものがあります。こういう仕事は一度よい仕事をすれば次につながるものでありますから、当方としても安心して他の方にも紹介してあげることができます。

最近、ややもすると職人が自分の仕事に誇りを失ない、ともすれば「やっつけ仕事」になりかねない現状を見聞きし憂慮しておりますが、ヨツヤウレタンさんの仕事は社長も作業員も責任と自覚と誇りを持って現場に当っており、キラリと光るものをいつも感じております。

「ファルト防水・シート防水などが主力で、ウレタン防水は自分の手で火を起し始めたところでした。ウレタンゴム塗料を用いてのコーティングが「ウレタン塗膜防水」使用のキッカケでしたが、41年になり、現在のJ I Sウレタン材質の元祖が誕生しました。自分達の動きが、今日の良質のウレタンを生むキッカケともなった創生期といえます。

——これまで一番苦しかったことは

四家 設立当時は誰でもそうだったと思いますが、営業、現場施工、経営業務など、一人五役位でやってきました。資金があればより大きな仕事でしたが、神の采配か大きな仕事に手を出せなかったことが、その後の大きな痛手を受けずに済みました。始めの10年間は規模の大小にごかわらず、厚塗りできる仕事の受注に心掛けました。この期間の技術の蓄積が、信用の増大につながり、30年へのアプローチにつながったと思います。

——思い出に残る現場は

四家 昭和45年に大阪で行われた世界万国博の「太陽の塔」や「鉄骨造ボード張りの三菱未来館」などで、下地が動くことを前提にウレタン防水を行って、柔構造でも厚みを持ってすれば非常によい防水になることが証明されたことです。

——カラーウレタンが育ってきたのは

四家 カラーウレタンの始まりは、この三菱未来館の工事からでした。44年からですが、その後カラーウレタンを仕上げ材に使うことにより文教施設、グラウンド舗装などの新しい需要を開拓し、公立学校の仕事にアプローチでき、これが50年代の飛躍のキッカケにもなりました。

——海外での実績は

四家 53年に、国内の実績が(株)日建設さんに認められてインドネシアのプロジェクトに採用されることになり、ウエザリングテストのようなノ

◀◀ ヨツヤウレタン(株)創立30周年 ▶▶

この上は、一層、人間味のある「手作り工事」を心掛け、いつまでも出会いのときの情熱を持ち続けて、業界および社会の向上に貢献してほしいと切に願うものであります。

伝統の施工品質で
さらに飛躍を



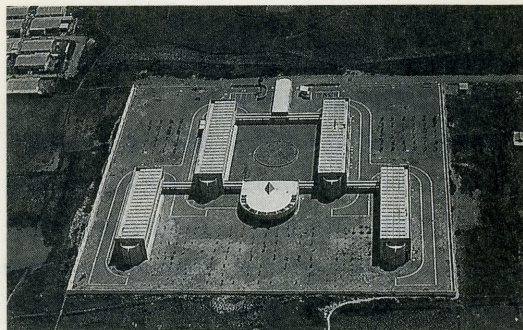
(株)日建設計 大阪本社
監理部 技術長
岡本 隆雄

ヨツヤウレタン(株)、四家社長、役職員従業員の皆様、創業30周年おめでとうございます。

小生とヨツヤウレタン(株)四家社長との出会いは、

1979年(16年前)インドネシア共和国セレベス島での、看護学校のプロジェクトが最初でした。年間を通じて気温が28~32℃の、過酷な気象条件の下での防水で、どのような材料を採用するか。検討の結果、保土谷建材(株)の「ロバストコートT」を採用することにしました。ところで「現場はインドネシア・セレベス島ですよ」。その時、保土谷建材さんより、日本から、技術者を派遣し、責任施工でやる業者がいると紹介されたのが、ヨツヤウレタン・四家社長でした。

上記のプロジェクトで、当時日本では、コンクリ



インドネシア海員学校

、苛酷な条件のなかでビクともしない結果ができたことは大きな自信となり、国内外の大型プロジェクトに、ウレタン防水を安心して売り込むことができ、受注拡大へとつながりました。

—人材を育てる方法は

四家 ウレタン工場では、オートメーションにより合理的に生産されるシステムになっています。この生産された製品を、良質の技能者の手によって商品にするのが現場ですから、常に人材を確保するように務めてきました。若い人材を育て上げるには、魅力ある職場であることはもちろんですが、社員の指揮・監督は私達の社員の目によって行うことが大切です。大事に育てた人間を、ただ単に派遣するだけでは労務管理上無理があり、人材の流失につながることも多く、このことを防ぐためにも私達は、受注分野から開拓し責任施工の道を歩んできたのです。

—今後の会社運営については

四家 「自分の仕事に誇りを持つ」若い人の養成と合わせて、「防水の仕事为天職」として続けられる環境造りに努め、従業員との人間関係を大切に、社会への参加を「アメニティーへの貢献」と位置付け、一貫回結して邁進していくつもりです。

—好きな言葉は

四家 ヨツヤウレタン創業期から助言をしてくれたわが社の池田会長の弟さん上田和廣様からいただいた「大道無門」です。この言葉は、姑息な奇策を弄さず、真正面からオーソドックスにビジネスに邁進すれば、天下の大道に邪魔ものや障害物が無くなるという意味とのことです。「大道無門」こそ企業発展の道であり、それが全従業員が満足していく必須の条件ではないかと考え、会社のモットーともしています。

◀◀ ヨツヤウレタン(株)創立30周年 ▶▶

ートといえばレデーミクスコンクリートでした。現地では、1日20㎡余りのコンクリート打設に800人近い労務者を使い、砂・砂利・セメント・水を各々配合しモノゲンで練り、バケツリレーで打設しました。防水工事は、日本より6人の技術者が派遣され、灼熱の太陽の下で入念に施工していただきました。

その後、1990年インドネシアに出張したことがあります。上記プロジェクトが、施工後10年経過しておりました。良い機会だと、四家社長と現地に状況の確認に行っていました。過酷な気象条件にもかかわらず、材料そのものはもちろん、施工的にも何ひとつ問題はございませんでした。

小生は防水に限らず、建築は、デザインがしっかりしていて、しっかりした材料を使い、しっかりした施工をすれば、問題の残ることはないと考えます。防水工事は特に、施工精度(品質)が重要と考えます。

インドネシアのプロジェクトでも示すごとく、ヨツヤウレタン(株)の、施工後10年~15年経過しても問題のない、しっかりした防水施工には感謝し、非常に満足いたしております。

こうした、技術と施工品質に対する信念が、ヨツヤウレタン(株)の今日の30年を支えているものと感じております。

終わりに、ヨツヤウレタン(株)が30周年を契機に、一段と飛躍発展されることを信じ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。この度は本当におめでとうございます。

祝 詞



保土谷建材工業(株)
取締役社長

小田切 信

ヨツヤウレタン(株)創業30周年誠におめでとうございます。言うまでもなく30年という年月は、大変永

い期間であります。その間、幾多の厳しい困難に遭遇されたことと思いますが、見事にクリアされ今日を迎えられたことは、誠に喜ばしく、また敬服いたす次第であります。振り返れば、30年前の創業時には、四家社長は20代の半ば過ぎという若者であったわけで、改めて驚嘆させられる次第です。私が初めて四家社長をお見かけしたのもその頃で、保土谷化学の営業部門のフロアーの建材部へ、肩で風を切る勢いで訪れる四家さんの姿を今でもはっきり思い出します。私も30才を過ぎたばかりの時でしたが、なかなかバイタリティーに溢れた気鋭の人だなとお見受けしておりました。その後、保土谷化学の建材部門は分離され、保土谷建材工業(株)となり、浜松町に移転したのでお見かけする機会もなくなり、20数年が過ぎ去りました。ところが平成6年6月末に、再会、いや初めてご挨拶をすることになったのは、私が保土谷化学の常務取締役事業本部長を退任し、保土谷建材の社長に就任したからであります。それ以来お付き合いをする程に、約30年前にお見受けした旺盛なるバイタリティーをそのまま持ち続けておられる四家社長に、新たな敬意を覚えました。そして、他に先駆けて、ウレタン系塗膜材に着目され、それら工法の普及、実践の第一人者であり、最大の功労者であることを知るに至りました。また、そのファミリーに見られるように国際的感覚にも優れておられ、事業も東南アジア圏など、グローバルに展開され、研修生を受け入れ技能者を育成する等々、国際貢献を果たしておられます。誠に見事な30年間を過ごしてこられたと言ってよいと思います。古来より、「勇将のもとに、弱卒なし」と言われるように、ヨツヤウレタン(株)の社員の皆様も全員優秀な方々ばかりとお見受けいたします。30周年は、一つの節目であります。四家社長という勇将を中心に今後、40周年、50周年とますますの発展を続けられるように心より祈念いたしております。

私ども、保土谷建材工業も、再来年7月に会社設立20周年を迎えます。貴社創業以来のお付き合いをますます大事にして、共栄を遂げたいと思っております。

◀◀ ヨツヤウレタン(株)創立30周年 ▶▶

ます。四家社長をはじめ、ヨツヤウレタン(株)の全社員の皆さま、重ねて申し上げます。「創業30周年本当におめでとうございます。今後、ますますのご繁栄をお祈りいたします」。

堅実をモットーに さらなる発展を



兼松 株式会社取締役・
化学品本部長

野上 和之

ヨツヤウレタン(株)の創立30周年誠にありがとうございます。省みて昭和41年といえば、ミリオネートSAが実施工された年であり、この年からウレタン防水材の歴史がはじまったといえるでしょう。

このような黎明期の御苦労は一方ならぬものがあつたと推察されますが、四家正勝社長の飽くなき好奇心とチャレンジ精神によって今日のヨツヤウレタン発展の基礎を築かれたものと確信するものです。

防水という仕事はあまり目立たない部分ですが、古くから「雨露を凌ぐ」という言葉がありますように、建物にとって重要かつ基本的な機能であります。

今日ではウレタンの建材としての利用も多岐にわたり、一層の発展が期待されているのも先人のたゆまぬ努力があつたとの思いであります。

また、多数ある防水材料の中からウレタン防水材一筋に30年ということは真に尊いことであり、加えて創意工夫とパイオニア精神を発揮され、さらなる発展に繋がりウレタン防水業界に貢献されていくものと確信しております。

微力ながら、当社にしてもなお一層のご協力をさせていただきますたく、ヨツヤウレタン(株)の益々の御発

展と四家社長はじめ従業員の皆様の御健勝と、御活躍を祈念しましてお祝いの言葉といたします。

「アットホームな求心力と 優れた技術力でより 一層の飛躍を」



筒中シート防水(株)
代表取締役

松藤 富男

このたび、ヨツヤウレタン(株)には、創立30周年を迎えられましたこと、心からお喜び申し上げます。

昨今のまことに厳しい状況の中、30周年の歴史を積み重ねられたことはまさに四家社長のお力とそこに集う社員の方々の常日頃のご努力の成果と確信しております。

四家社長には、先見の明がおり、これからはウレタン防水の時代がくる」とお考えになり、日本においていち早く技術導入を計られ、その普及に尽力され今日に至っておられます。

私どものお付き合いも「これからのプールの改修は、塩ビ絶縁工法が一番良い」とのお考えから始まりました。まだ5年のお付き合いではありますが、都内各自治体の主に学校プールの改修において数多くの実績を残していただけるまでになっております。

「ヨツヤにまかせておけば大丈夫」と言わしめる技術力、家族的雰囲気のある社風による団結力と四家社長の先見の明とリーダーシップによって、厳しい荒波に打ち勝ち、ますますのご発展を遂げられることをお祈り申し上げます。

ヨツヤウレタン30周年の歩み



1971

中山競馬場

採用工法：ミリオネートRF クッション仕上

S造で内防水のモルタル仕上面に、軽量で歩行のできる防水層として、下塗りに伸びの大きい防水材料を用い、表面には対磨耗の防水を使う仕様を採用。



1975

整肢養護園

採用工法：ミリオネートRF クッション仕上

アス防で押えコンクリートで仕上がっているのを、それを下地として利用し、歩行使用ができて、さらに階下に騒音を生じないウレタン防水を採用。



1973

杉山科学研究所

採用工法：ポリエチレン断熱 ロバストコートT

S造デッキプレート屋根スラブに、トーレペフ断熱材を張付け、その表面にタールウレタン塗膜防水のシルバー塗装仕上を採用。



1976

社会福祉法人 浴風会本館

採用工法：ロバストコートSG

アス防保護仕上の屋上を居住者の散策に使えるように、弾性に富んだ歩行用ウレタンによる防水仕様を採用。



1974

図書印刷沼津工場

採用工法：ロバストコートT

S造大スパンの傾斜屋根で、そのスラブコンクリートは50mmなので軽量の防水でなければならず、旧アス防を撤去し、エポキシ補強の上、ウレタン防水を採用。



1977

日本水産八王子工場

採用工法：ロバスタン

アス防コンクリート押え仕上の表面に、歩行使用やスポーツ利用のできる防水層として、ゴム質で騒音発生のないウレタン厚塗り防水を採用。



1979

インドネシア海員学校

採用工法：ロバストコートT 防水工法

屋上は、コンクリート直仕上とし、ウレタン防水を行なってから保護モルタルを40mm打設し金ゴテ仕上を採用。看護学校・動物医薬品検査所も同仕様。



1986

都立日比谷図書館

採用工法：ロバストコートSG 防水工法

旧アス防を存置のまま、平板ブロックを除去後、モルタルにて下地均し仕上を行ない、歩行のできるゴム質床防水を採用。



1986

青梅市立河辺小学校

採用工法：ロバストコートSG 防水工法

在来モルタルの目地を掘り起こし、脱気処理して呼吸パイプを取付し、露出ウレタン防水の歩行用仕上を採用。



1986

ジャカルタ救急病院

採用工法：ロバストコート断熱防水 防水工法

ロバストコートT防水層の上に、高密度ポリスチレン版を敷き、ワイヤメッシュ補強してコンクリート50mm仕上した。



1986

スリランカ国立製薬センター

採用工法：ミリオネットタイル複層模様仕上 防水工法

外壁は防水性のある弾性吹付タイル仕上を採用。バンドン地質研究所・インドネシア住宅開発センターアセアン人造りセンターも同仕様。



1987

文部省本館

採用工法：ウレタン塗膜L-US 防水工法

内防水の仕上層を生かし、通気緩衝シートを張付けし、ウレタン防水歩行用仕様を、さらに非歩行屋根部は、露出カラーウレタン防水を採用。

30 YEARS OF FAITHFUL SERVICE TO OUR CUSTOMERS



1988

平競輪場

採用工法：ロバスタン 重歩行に耐え、煙草の火で引火しない防水性床材として、ノンスリップ性能を大にした、厚塗りの露出ウレタン防水を採用。



1989

東京都教育研究所

採用工法：ミリオネットHCパーク 地下室の上にある駐車場で、旧防水を存置のまま、その押えコンクリートの表面に車の通行可能な露出防水で特殊ウレタンのノンスリップ仕上を採用。



1989

保谷市庁舎

採用工法：ロバコートSG 在来モルタルの目地を掘り起こし、脱気処理してから立面に呼吸パイプを取付、歩行用ウレタン防水を行なう仕様を採用。



1991

新宿区立早稲田小学校

採用工法：ロバコートSG&ロバコートパーブ 学校屋上は露出歩行用のウレタン厚塗り防水ノンスリップ仕上、校庭は、ゴムチップ固着の透水性弾性舗装を採用。



1991

杉並区立桃井第一小学校

採用工法：サンロイド防水&ロバスタン 学校プールは塩ビシートを機械固定工法で行ない、屋上は在来塗膜防水を生かして、表層にスポーツ利用に適するウレタン防水を採用。



1992

赤穂文化会館

採用工法：ロバコートT 高さが違う屋根が多数のブロックに分断されているので、防水納り上、塗膜防水を採用。

ヨツヤウレタン 30周年の歩み



1992

武蔵村山市庁舎

採用工法：ロバストコートSG&F

内防水の仕上モルタル上に新たに歩行用の露出防水として、ノンスリップで厚みのあるウレタン防水を、非歩行屋根はカラー塗装を採用。

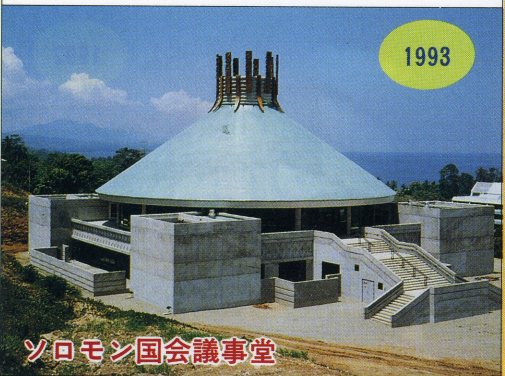


1993

神宮球場 スタンド

採用工法：HCスプレーフ仕様

スタンド幅の改修に伴い防水性付与の目的で、超速硬化型ウレタン吹付の防水層形成後に、さらに重歩行に耐えるノンスリップ保護仕上を採用。



1993

ソロモン国会議事堂

採用工法：ロバストコートF

コンクリート直押え仕上の勾配屋根に、カラーウレタン防水層を形成し、化粧用トップコート仕上を採用。バイオマスプロジェクト・JKT救急病院も同仕様。



1994

松尾病院

採用工法：ロバスタン

アス防で押えコンクリートで仕上がっているのを、それを下地として利用し、歩行使用ができてさらに階下に騒音を生じさせないウレタン防水を使用。



1994

お茶の水女子大学附属図書館

採用工法：塩ビシート機械固定

アス防砂付ルーフィングの表面に取付金具を設置し、その金具に防水シートを接着させ、シート相互は熱風溶着した防水仕様を採用。



1996

駒沢オリンピック公園

採用工法：サンロイドDN防水

塩ビシートファスニング工法にてコンクリートプールの防水改修を行なった。

30 YEARS OF FAITHFUL SERVICE TO OUR CUSTOMERS